

連載 亀ちゃんにも言わせてよ！

議論でいいのか

女性天皇問題では

天皇の皇位継承について、小泉首相の私的諮問機関「皇室典範に関する有識者会議」が1月25日に初会合を開きました。皇室では秋篠宮の後に男子が誕生していないため、皇位の継承を皇統に属する男系男子に限っている皇室典範を改正しなければ皇位継承者がいなくなり、天皇制の維持が不可能になる問題が出てきたことに端を発しています。

1月26日付朝日新聞によると、この初会合で委員らは「皇位継承の安定的な継承」に議論の焦点を絞ることを確認しています。そして座長は「学説を戦わせる場にはしない。結論ありきではない。歴史的な経緯を重いものとしてふまえ、今後何百年、日本がどうなるかを考えなくてはならない」とも述べたようです。しかし、この会議のメンバーには皇室制度や歴史に詳しい人が少ない、女系・女性天皇に反対や慎重な人がいないといった指摘もなされており、はじめに結論ありきの疑いが拭いきれません。

議論の前提自体にも

この議論では、上述のようにはじめに「女性天皇を認める」という結論ありきとの見方ができますが、少し角度を変えてみてください。そもそも戦後天皇制自体が問題となっていて、今日に至ってもまだきちんとした市民全体での議論がなされていません。そして、議論がなされていない背景には私たちが天皇についてほとんど何も知らないことがあると思います。たとえば、「天皇ってなに？」と尋ねられたならどう答えますか。憲法1条にあるように「日本国の象徴」と答える人はいても、より具体的な役割などを答えられる人は多くはないとおもいます。かく言う私も、せいぜい憲法7条の国事行為やいわゆる皇室外交・ときどき報道される宮中祭祀を行っていること、しかも、きわめて表面的・部分的なことしか知りません。

上記記事では有識者会議で「前提となるのは国民の意思であり、平均的な国民の考えだ」という

意見が出されたと言われていますが、天皇や皇室についてその存在意義にかかわる本質的なことを私たちの多くがほとんど何も知らないままで、「国民の意思」だとか「平均的な国民の考え」が出てくるわけがなく、前提自体存在しないのではないのでしょうか。

論点のすり替え？ズレ？

上の内容と重なるかも知れませんが、天皇制の本質的議論をすることなしにいつの間にか男女平等の問題に論点がすり替えられているように思うのは私だけでしょうか。たとえば、2月1日付朝日新聞には「女性天皇容認86%」といった見出しとともに「皇室典範を改正して『女性も天皇になれるようにした方がよい』と思う人が86%に達していることが、1月29、30の両日に朝日新聞社が実施した全国世論調査（電話）で分かった」との記事がありました。また、「反対に天皇を『男性に限った方がいい』と答えた人は6%で」と書かれています。これを見れば、市民の大半が女性天皇を認めているとなりますが、私はここに大きな疑問を感じました。この調査の質問が天皇制の維持を前提にしていることです。ほんらいこの質問は天皇制が必要だと思う人にするか、市民的総意として天皇制維持が明確になった後の行うべきものではないのでしょうか。マスメディアがこのようなことをすれば、この問題に対して市民は男女平等問題と認識し、従来からの天皇制に関するさまざまな論点を度外視してしまう結果になるものと思います。さらに、マスメディアは男女平等を言うならば、この問題と家制度との関係をどう考えているのでしょうか。

意図的にマスメディアが論点をすり替えているとは思いますが、それにしても近頃ズレてはいませんか。

なぜ急ぐのか

有識者会議が今秋に報告書を出し、政府は来年の通常国会に皇室典範改正案を出したいとしてい

るようですが、そんなに急ぐ必要があるのでしょうか。有識者会議が言うように「歴史的な経緯を重いものとしてふまえ、今後何百年、日本がどうなるかを考え」るならば、もっと時間をかけじっくりと全市民的議論にするべきです。そのためには、有識者会議を公開するだけでなく、天皇・皇室や宮中行事（祭祀等）に関する具体的で詳細な情報を私たちに公開してほしい。そして、天皇制についての本質的理解と議論を行うべきでしょう。宗教的な問題など私たちの知らないことがたくさんあります。天皇が女性でもいいかどうかはその後の議論ですよ。それに、皇室の人はこの問題について公に意見を述べられないのかな？政治的発言になるのかな？これだけの人権制約を強いていて何か酷いような気もしますが…。皇室の方々も人間なんですよ？

もう一言

今回は女性天皇問題をとりあげましたが、この問題についてだけではなく、近頃はさまざまな問題についてきわめて表面的なだけで、誰かの描いた結論のための議論ばかりなされているように感じます。こんなことばかり繰り返していて私たちの未来は一体どうなるのでしょうか。

何かをしようとするとき、「なぜそれをするのか」を考えずに「いかにそれをするか」しか考えない大人たちが多くなっているのでしょうか。すでに決まっていることに沿って（誰かに敷かれたレールに乗って）生きるだけなら「いかにそれをするのか」だけでもいいのですが、世の中そんな大人ばかりになっているのでしょうか。それを見て育つ子どもたちは…。

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]